

科目名	卒業研究						年度	2026
英語科目名	Graduation Research						学期	後期
学科・学年	声優・演劇科 2年次	必/選	選	時間数	120	単位数	8	種別※ 講義+演習
担当教員	田中由香	教員の実務経験		有	実務経験の職種		声優	
【科目の目的】 舞台・映画・アニメーション・ゲーム等、様々なメディアにおいて必要な、キャストについてさらに見識を深める。演技する者として表現者であり続けるために様々なジャンルの作品を通して、自分に有益なものを吸収し、演技というものを理解する。この授業に参加する学生が、固定観念に縛られず、自由な発想、役柄の掘り下げ方など、芸能の世界において活動していくための研究の必要性を理解することを目指す。								
【科目の概要】 個々に研究テーマを設定し、卒業論文にまとめ発表する。								
【到達目標】 言葉を使って「伝えること」の難しさを知り、さらに自らの課題を見つけ常にチャレンジし続けることを習慣化させる。								
【授業の注意点】 授業態度（特に居眠りや私語）に関してはかなり厳しく対応する。また、連絡のない遅刻・欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することはできない。								
評価基準＝ルーブリック								
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力			
到達目標【理解】	声優・演劇科で学んだ事をしっかりと理解している。		声優・演劇科で学んだ事を理解している。		声優・演劇科で学んだ事が理解できていない。			
到達目標【研究】	制作する為に必要な資料が必要以上に揃っている。		制作する為に必要な資料が全部揃っている。		制作する為に必要な資料が揃っていない。			
到達目標【制作】	正しい日本語で、読み手に分かりやすく書かれており、自分の意見も交え、事実に基づき研究の成果が発揮された論文になっている。	読み手に分かりやすく書かれており、自分の意見も交え、事実に基づき研究の成果が発揮された論文になっている。	自分の意見も交え、事実に基づき研究の成果が発揮された論文になっている。	資料から抜粋しただけの論文になっている。	曖昧な表記が多く、引用したものだけの論文になっている。			
到達目標【発表】	声優・演劇科で学んだ発声を活かし、表情豊かに、明瞭な滑舌で、聞き手を引き付ける発表ができる。	声優・演劇科で学んだ発声を活かし、表情豊かに、明瞭な滑舌で発表ができる。	聞き取りやすい音量と滑舌で発表できる。	声が小さい、または滑舌が悪い。	声も小さく、滑舌も悪い。			
到達目標E								
【教科書】 レジュメ・資料は必要に応じて配布。パソコン・タブレット・スマートフォンなどのモバイルツール、参考資料等は授業内で指示する。								
【参考資料】								
【成績の評価方法・評価基準】 小テストおよび期末テストにより採点。授業への積極性と参加態度を評価する。								
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。								

科目名		卒業研究			年度	2026
英語表記		Graduation Research			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル		評価方法
1	導入	2年間の振り返り	1 テーマを見つける	卒業論文のテーマを、2年間で学んだ事を振り返り、見つける		2
2	研究	テーマに沿って情報収集する。	1 資料収集 1	知識を深め、新たに発見する		
			2 資料収集 2	歴史を調べ起源を知る		
3 資料収集 3	作品を視て理解する					
3	研究		4 資料収集 4	講師に質問する		
			5 資料収集 5	参考資料を集める		
4	研究					
5	確認	資料の確認	1 整理	収集した資料をテーマに沿って整理する		
6	制作 1	卒業論文を制作する	1 書く 1	事実に基づいた内容を書く		
			2 書く 2	研究結果、自分の意見を書く		
3 書く 3	曖昧な表記をしない					
7	制作 2		4 書く 4	伝わりやすい文章を意識する		
			5 資料添付	分かりやすい図解を添付する		
8	制作 3					
9	確認	途中まで出来上がった卒業論文を確認する	1 確認	テーマに沿って書けているか確認		
			2 校正	伝わりやすい順番を考える		
10	制作 4	卒業論文を制作する	1 見直し	確認と校正を踏まえ修正する		
			2 書く 1	事実に基づいた内容を書く		
3 書く 2	研究した結果、自分の意見を書く					
11	制作 5		4 書く 3	曖昧な表記をしない		
			5 書く 4	伝わりやすい文章を意識する		
			6 資料添付	分かりやすい図解を添付する		
12	校正	書き上げた卒業論文を最終確認する	1 確認	テーマに沿って書けているか確認		
			2 校正	伝わりやすい順番を考える		
13	完成	卒業論文を制作する	1 見直し	確認と校正を踏まえ修正する		
			2 マナー	期限を守る		
14	発表前練習	伝え方を効果的にする	1 発声	聞き取りやすい音量、声質を身に付ける		
			2 表現	伝わりやすさを追求する		
15	発表					

評価方法：1. 卒業論文発表、取り組む過程
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等